

令和 7 年度 庄原市児童生徒科学研究の進め方についての研修会

■日 時：令和7年5月16日（金）14：50～16：35

■場 所：庄原市ふれあいセンター コパリホール

■参加者：庄原市内各小・中学校の教職員 20 名

■目 的：科学的な態度や能力を育て、問題解決の方法を習得させる科学研究の進め方について研修し、庄原市内各小・中学校の科学研究を推進する。

講話・演習「科学研究の進め方」

講師：広島県立教育センター 教科教育部 指導主事 中島 純平

【講話の内容】

○昨年度の優秀作品の紹介から

- ・広島県科学賞の評価の観点のである「自主性」の深め方、「客観性」のある研究について

○参加者の質問から

- ・「問い」の持たせ方、結果と考察の書き方、複数のグループに研究の指導をする心得

○中学校学習指導要領解説理科編から

- ・普通の授業で探究の過程を意識することの重要性、目指す子供の姿から考える授業設計

【研修会の様子】

- ・参加者の質問に答える形で進行。指導者が日々感じている困り感、ニーズに合わせて講話をいただいた。
- ・昨年の優秀作品のパネルを用意していただいた。日常の「もやもや」を焦点化して「問い」にしている客観性の高い研究モデルを参照できた。



【参加者の感想より】

- ・実際の作品について解説があったので、これまで「科学研究としてはまとめにくい、難しい」と思っていたようなテーマであっても、予備実験や研究方法を工夫することで、研究が可能なものがあると分かった。子供の発想を生かせるよう、指導できたらと思う。
- ・子供の発想や疑問の持ち方を豊かにするには、日々の授業が大切であると改めて感じた。科学的なリテラシーを高めるためにも、子供が問題解決の過程を見通した思考する学びを作る必要があると分かった。
- ・子供が主体的に取り組みたいと思える問題提示や結果を分析しやすくする思考ツールや表、グラフの活用を子供がセレクトできる環境づくりが大切であると感じた。